

報道関係者
地域広報関係者 各位

令和3(2021)年12月14日

国際日本文化研究センター

特別展「身体イメージの創造—感染症時代に 考える伝承・医療・アート」開催のご案内

国際日本文化研究センター（日文研）は、このたび大阪大学総合学術博物館との共同主催で、下記のとおり展覧会を開催することとなりました。この展覧会では日文研の所蔵資料を中心に、「疫病と医学」「身体を把握する」「身体への関心」「現代と未来の身体」という4つのテーマに分けて、伝承・医療・アートなど幅広い分野にかかわるさまざまな身体イメージを辿り、現代の感染症の時代に、未来へ向けて生きるヒントを探っていきます。

記

展覧会名	特別展「身体イメージの創造—感染症時代に考える伝承・医療・アート」
会期	2022（令和4）年1月17日（月）～2月12日（土）
会場	大阪大学総合学術博物館待兼山修学館（大阪府豊中市待兼山町1-20）
開館時間	10:30～16:30（入館は16:00まで）
休館日	日曜日、祝日
入館料	無料
主催	大阪大学総合学術博物館／国際日本文化研究センター

概要

本展覧会は、身体イメージの想像と展開に関する図絵や造形物を通して、一般の人々に現代の身体に関わる状況を捉え直す機会を提示することを目的としています。展示には日文研の宗田文庫コレクション、野間文庫コレクション、大阪大学適塾記念センターのコレクションも含み、ヴァーチャル・ミュージアムの制作、公開も併せて行います。

展示の内容は、日文研共同研究会「身体イメージの想像と展開—医療・美術・民間信仰の狭間で」（2018-2021年度、代表：安井眞奈美、ローレンス・マルソー）の成果に基づいています。

*本展覧会は、人間文化研究機構「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」の一環として実施します。

（参考資料：A4チラシ 2枚（表・裏））

本件問い合わせ先：

国際日本文化研究センター研究部 安井眞奈美

TEL: 075-335-2100（研究部受付） E-mail: m-yasui@nichibun.ac.jp

Constructing Images of the Body

Considering Folklore,
Medical Practice,
and Art in a Pandemic Era

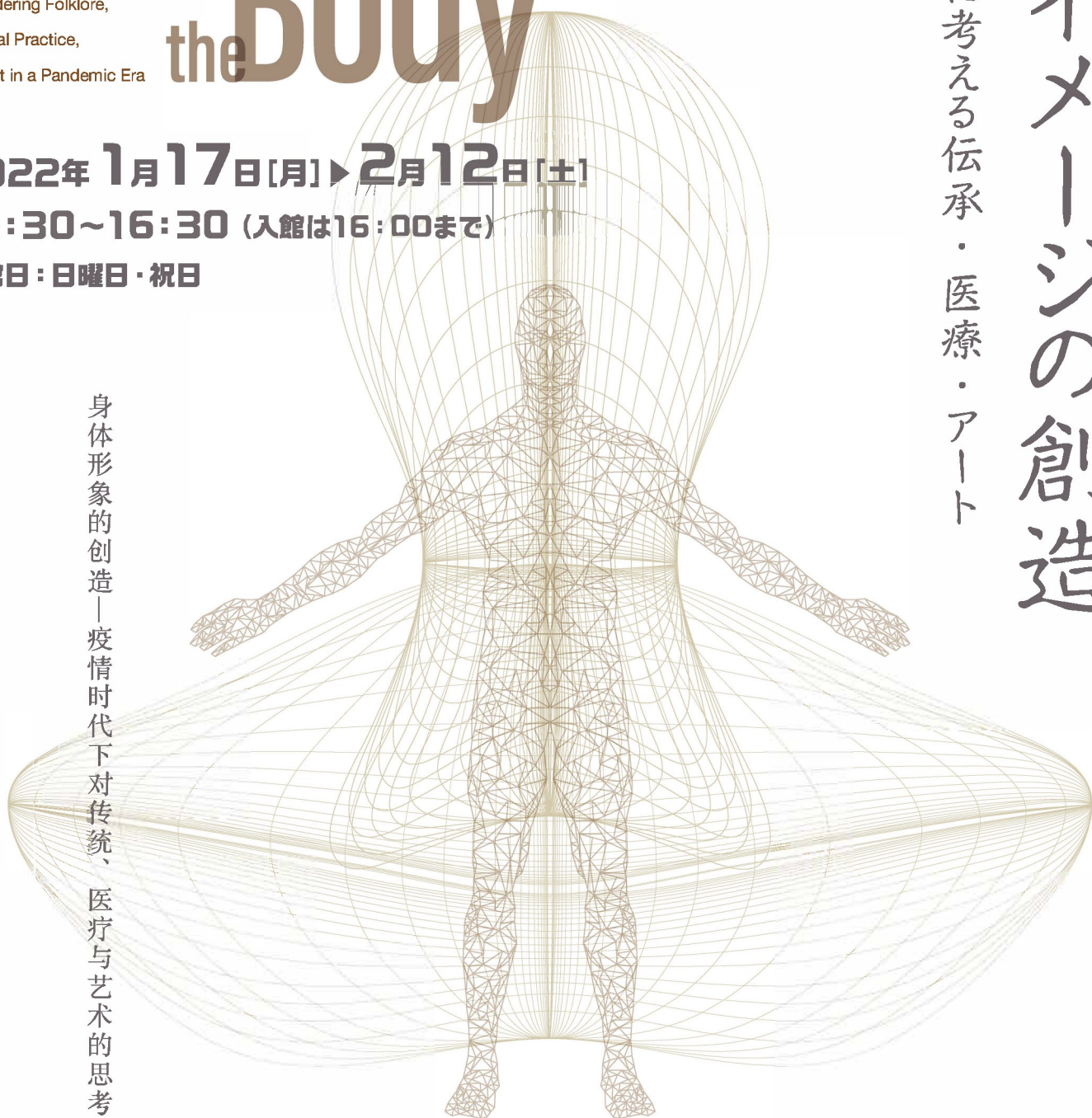
2022年1月17日[月] ▶ 2月12日[土]

10:30~16:30 (入館は16:00まで)

休館日: 日曜日・祝日

感染症時代に考える伝承・医療・アート
身体イメージの創造

身体形象的創造—疫情时代下对传统、医疗与艺术的思考



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
The Museum of Osaka University

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-20

Tel: 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

●阪急宝塚線「石橋阪大前駅」より徒歩約10分

●大阪モノレール「柴原阪大前駅」より徒歩約20分

※公共の交通機関をご利用ください。

入館料
無料
Admission Free



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

主催: 大阪大学総合学術博物館 / 国際日本文化研究センター

本展覧会は、国際日本文化研究センター共同研究会「身体イメージの想像と展開—医療・美術・民間信仰の狭間で」(安井真奈美、ローレンス・マルソー代表 2018-2021年度)の成果に基づき、人間文化研究機構「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」の一環として実施する。

感染症時代に考える伝承・医療・アート

身体イメージの創造

身体形象的創造——疫情时代下对传统、医疗与艺术的思考

Constructing Images of the Body

Considering Folklore, Medical Practice, and Art in a Pandemic Era

人は太古より身体に強い関心を抱き、さまざまな絵や図像を創ることによってイメージを膨らませてきました。この展覧会では国際日本文化研究センターの所蔵資料を中心に「疫病と医学」「身体を把握する」「身体への関心」「現代と未来の身体」という4つのテーマに分けて、伝承・医療・アートなど幅広い分野にかかわるさまざまな身体イメージを辿り、現代の感染症の時代に、未来へ向けて生きるヒントを探っていきます。

Since ancient times people have been fascinated with the human body, and images of the body have continued to grow through the production of a variety of drawings and other icons. Consisting mainly of materials in the collections of the International Center for Japanese Studies, this exhibition is divided into four thematic areas: "Epidemics and Medicine," "Getting One's Head around the Body," "A Fascination with the Body," and "Bodies Present and Future," and features a range of images across the fields of popular religion, medicine, and art, with an aim to seek out possibilities for living in the current pandemic era and into the future.

自远古时代，人类就对身体有着密切的关注。人们创造了极为丰富的绘画、图像，使身体的形象愈渐饱满。本次展览，以国际日本文化研究中心的馆藏为主要展品，共分为四大主题板块：“疫病与医学”“理解身体”“关注身体”“身体·当代与未来”。展览内容将横跨传统、医学、艺术等诸多领域，回溯形形色色的身体形象，以及在疫情蔓延的当下，探寻对未来生存的启示。



問い合わせ先
大阪大学総合学術博物館
 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
 Tel: 06-6850-6284
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

好奇心から生まれる創造

《展示構成》

Zone 1 疫病と医学

- | | |
|-----------|-------------------------|
| 感染症と現代医療 | 「COVID-19 大阪大学のワクチン開発」 |
| 疫病の流行 | 「種痘免許証」 |
| 疫病除けのまじない | 「はしかまじないおしえ宝」 |
| 種痘 | ジェンナー「牛痘の原因および作用に関する研究」 |
| 疫病的予防 | 「虎列刺病豫防法図解」 |

Zone 2 身体を把握する

- | | |
|----------|-------------|
| 身体内部のつくり | 「五臓六腑図」 |
| 顔をよむ | 「鏡相」 |
| 身体をよむ | 「鍼灸銅人形」 |
| 解剖書を模写する | 「和蘭全脈内外分合図」 |

エドワード・ジェンナー「牛痘の原因および作用に関する研究」(1798年刊)
 (国際日本文化研究センター(野間文庫)所蔵)



Zone 3 身体への関心

- | | |
|----------|------------|
| 身体各部位の表現 | 「訓蒙図彙」 |
| 身体部位の誇張 | 「しん板ばげ物尽」 |
| 身体の拡張 | 「耳鏡能書引札」 |
| あの世の身体 | 「地獄絵」 |
| 知識を広める | 「絵入日用女重宝記」 |

「しん板ばげ物尽」(国際日本文化研究センター所蔵)



Zone 4 現代と未来の身体

- | | |
|--------------------|----------------|
| 医療の“眼”の拡張—胎児の可視化 | 「超音波診断装置」 |
| 医療の“眼”の拡張—症状を数値化する | 「認知症画像診断サンプル」 |
| 性差を問い直す | 「29種類の性別記号」 |
| 認識の拡張—認知の可能性 | 「パレイドリア」 |
| 抵抗としての拡張—感染症と現代アート | 「資料版：隔離式濃厚接触室」 |
| 身体の拡張—ロボット(医療用) | 「手術支援ロボット」 |

ヒューマン・ロボット・インタラクションと未来の身体



(左) 「はしかまじないおしえ宝」

(右) 「虎列刺病豫防法圖解」

(上記2点 国際日本文化研究センター(宗田文庫)所蔵)

Access

《アクセスマップ》

- 阪急宝塚線「石橋阪大前駅」より徒歩約10分
- 大阪モノレール「柴原阪大前駅」より徒歩約20分

※公共の交通機関をご利用ください。

